

## 資料4. 本市の地域特性とこれまでの取組

### 4.1 地域特性

#### 4.1.1 自然的特性

##### (1) 気象

本市は穏やかな瀬戸内海式気候に属しており、市域周辺の平年値によると、年平均気温は 17.8℃、年間降水量は 1,335mm、年平均風速は 2.6m/s となっています。

近年、市域の気温は上昇傾向が示されており、平均気温と最高気温について最近 10 年間とそれより以前の 10 年間との比較では、それぞれ 1.4℃、2.2℃上昇しています。

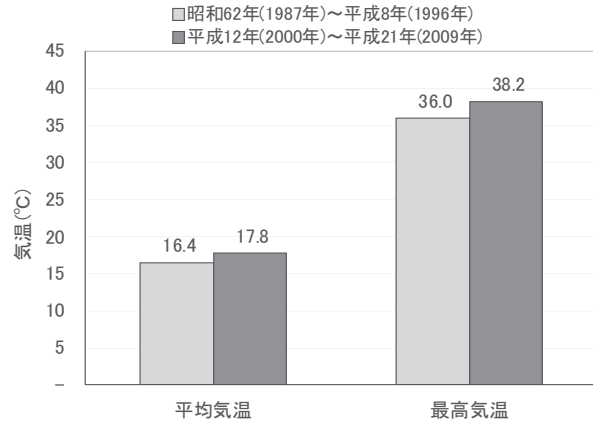
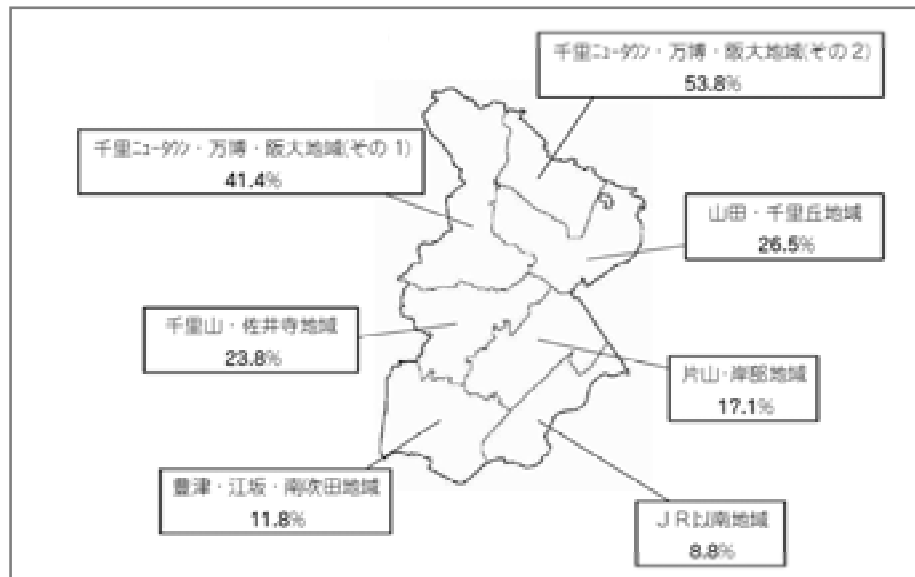


図 9 近年における気温の変化

(出典 「吹田市第 2 次環境基本計画」、「吹田市統計書」)

##### (2) みどり

市全域の緑被率は 26.7% (緑の面積は約 900ha) であり、比較的緑に恵まれた都市環境を形成しています。量的分布の状況を地域別に見ると、市域北部の「千里ニュータウン・万博・阪大地域 (その 1)」や「千里ニュータウン・万博・阪大地域 (その 2)」では 40%を超える高い緑被率となっている一方で、市域南部の地域では 10%以下と総じて低い状況にあるなど、地域によって緑被率の大小があります。



※平成 16 年 (2004 年) 4 月現在

図 10 地域ブロックにおける緑被率

(出典 「平成 21 年版 (2009 年版) すいたの環境」)

## 4.1.2 社会的特性

### (1) 人口・世帯数

本市の人口は352,366人、世帯数は155,081世帯となっています。(平成21年(2009年)9月30日現在) 近年、人口は微増していますが、世帯数はその伸びをさらに上回るペースで一貫した増加が続いています。

また、65歳以上の老年人口の割合が年々増加しており、本市においても少子高齢化が進行している様子が見えます。(老年人口割合が平成2年(1990年)の7.9%から平成21年(2009年)では19.3%に増加)

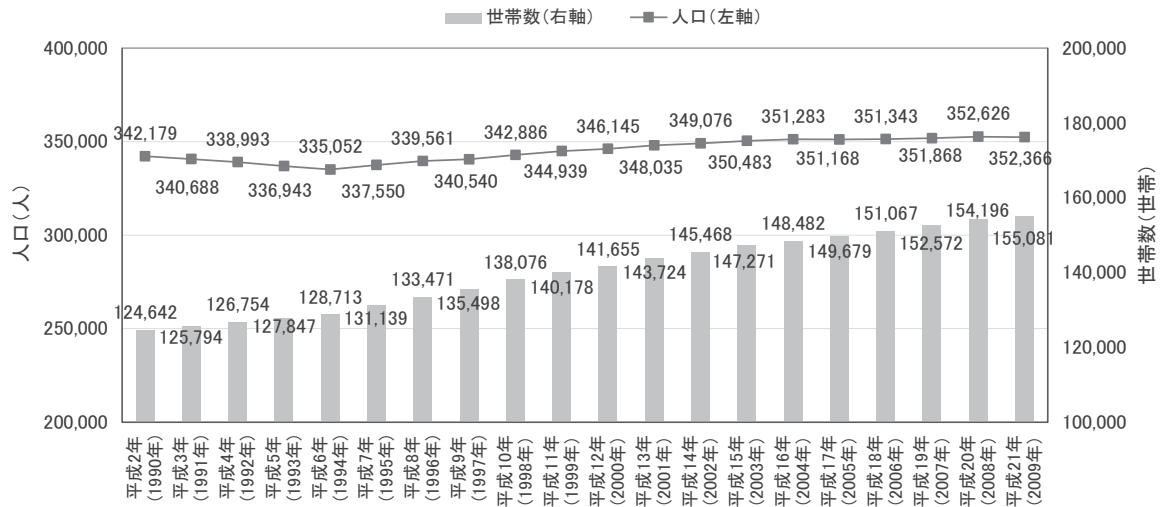


図 11 人口と世帯数

(出典 「吹田市統計書」(住民基本台帳による各年9月30日の値)をもとに作成)

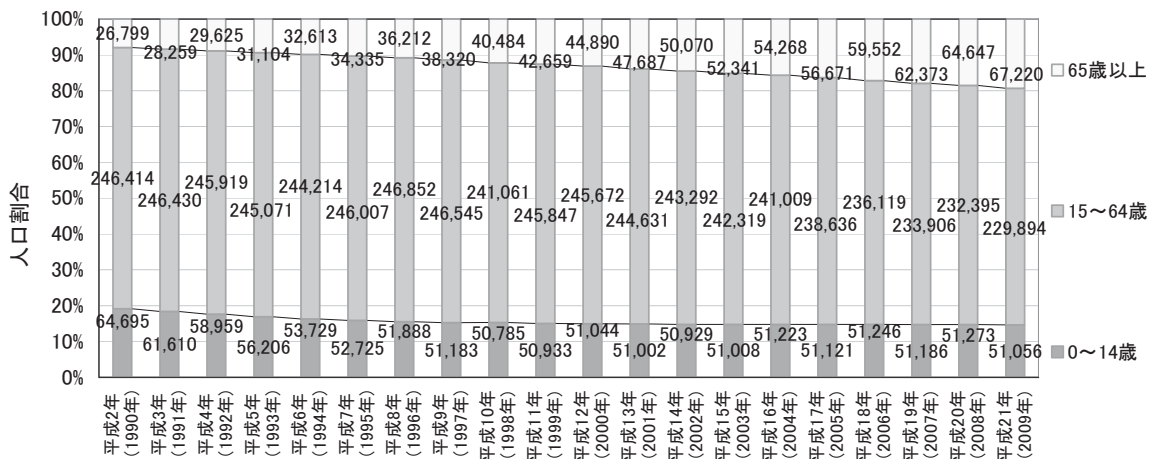


図 12 年齢階級別の人口割合

(出典 「吹田市統計書」(住民基本台帳による各年9月30日の値)をもとに作成)

一方、世帯数については、4人を超える構成人員の世帯が年々減少しているのに対して、単身世帯や2人世帯が特に増加しています。

また、戸建て住宅の世帯が減少する一方で、共同住宅（マンション・アパート）が増加しています。

建築の時期については、市内全体の80%近くの住宅は平成12年（2000年）以前に建てられたものとなっています。

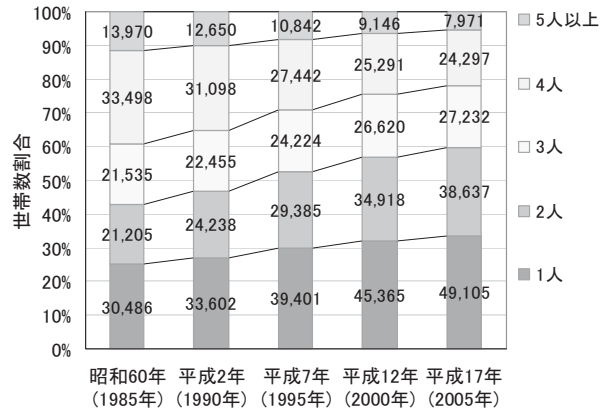


図 13 世帯人数別の世帯数割合

(出典 総務省「国勢調査」をもとに作成)

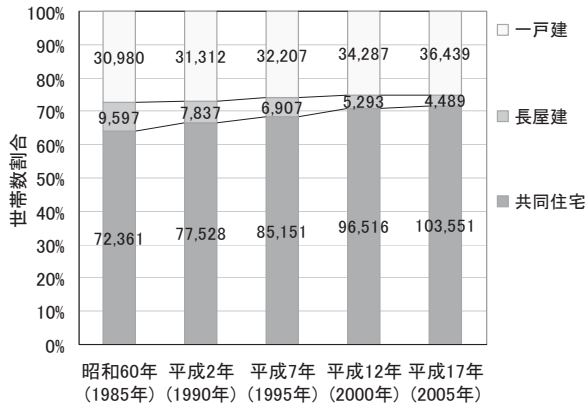


図 14 建て方別の世帯数割合

(出典 総務省「国勢調査」、総務省「住宅・土地統計調査」をもとにそれぞれ作成)

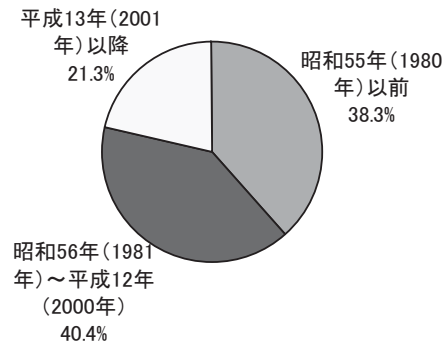


図 15 建築の時期別住宅数

## (2) 土地利用

市域の面積は3,611haであり、このうちの約63%は「市街地」(住宅地を含む)によって占められます。これに「普通緑地」(20.6%)、「鉄軌道敷・道路」(8.0%)などが続きます。

市街地と鉄軌道敷・道路を合わせると市域全体の71%に達しており、市域のほとんどは市街化された状況であると言えます。

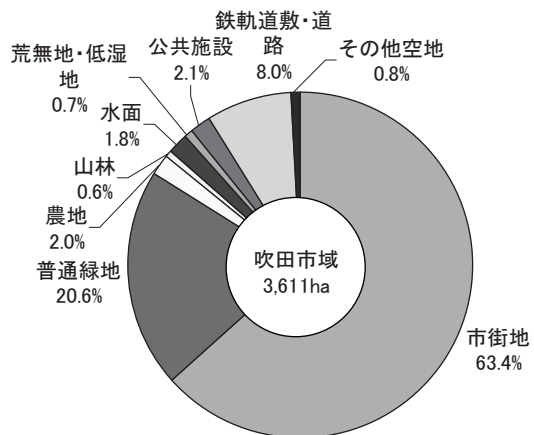


図 16 土地利用の状況

(出典 大阪府「土地計画基礎調査」をもとに作成)

### (3) 産業

市内の事業所数は 10,675 事業所、従業者数は 140,841 人です。事業所数、従業者数ともに、平成 8 年（1996 年）をピークに、近年はやや減少の傾向を示しています。

市内事業所の多くは小規模であり、全事業所数の約 73%は従業者数 10 人以下の事業所によって占められます。

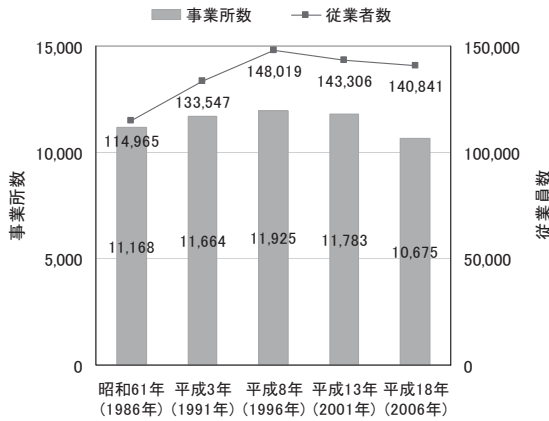


図 17 事業所数・従業者数

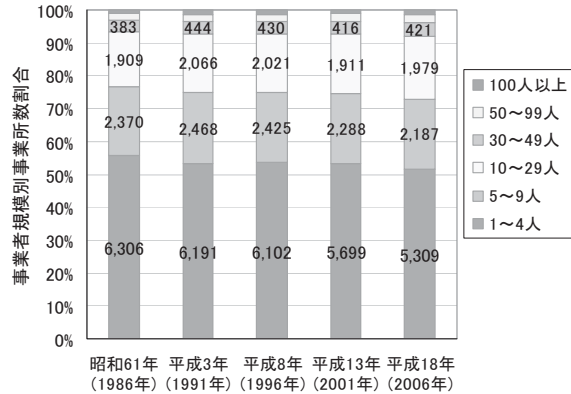


図 18 事業者規模別の事業所数の割合

(出典 「吹田市統計書」をもとに作成)

市内事業所の製造品出荷額等（従業員 4 人以上が対象）の推移を見ると、平成 2 年度（1990 年度）以降は総じて減少傾向にあり、平成 21 年度（2009 年度）までの間に製造品出荷額等は 37.6%減少しています。ここ数年は減少傾向が底を打ち、ほぼ横ばいが続く状態となっています。

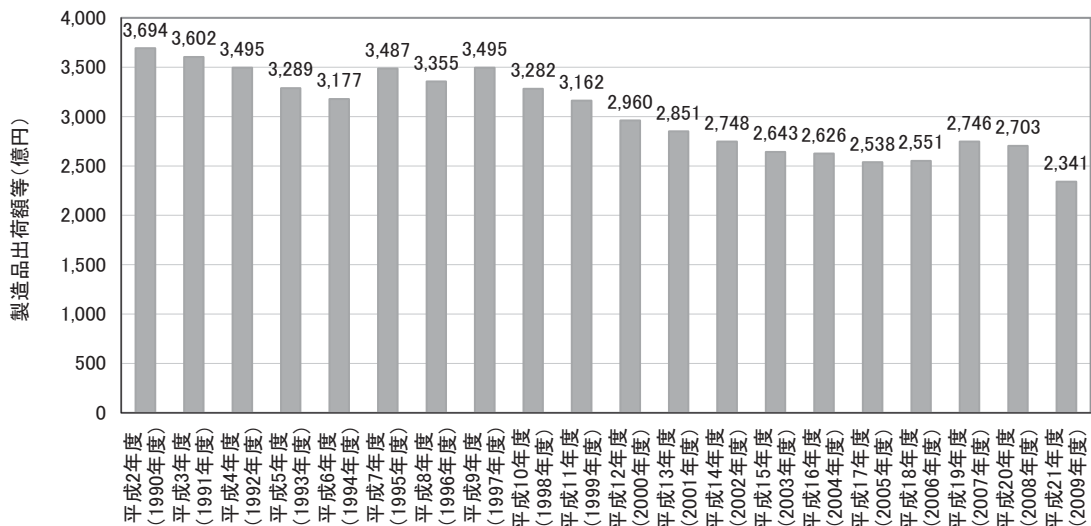


図 19 市内の製造品出荷額等の推移

(出典 「吹田市統計書」、大阪府「大阪の工業」をもとに作成)

#### (4) 交通

市内は鉄道網、道路網ともに高密度に発達したネットワークが形成されています。

特に、鉄道は7路線14駅（JR東海道線、阪急京都線、阪急千里線、大阪市営地下鉄御堂筋線・北大阪急行、大阪高速鉄道モノレール線・彩都線）が整備されています。鉄道会社別の年間の乗客数は、阪急電鉄が3,091万人、大阪高速鉄道が382万人、JR西日本が1,346万人などとなっています。（平成20年（2008年）実績）

また、道路は3つの高速道路（名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道）のほか、大阪中央環状線、大阪高槻京都線、新御堂筋線（国道423号）、大阪内環状線（国道479号）、吹田箕面線、豊中摂津線などを中心に整備されています。

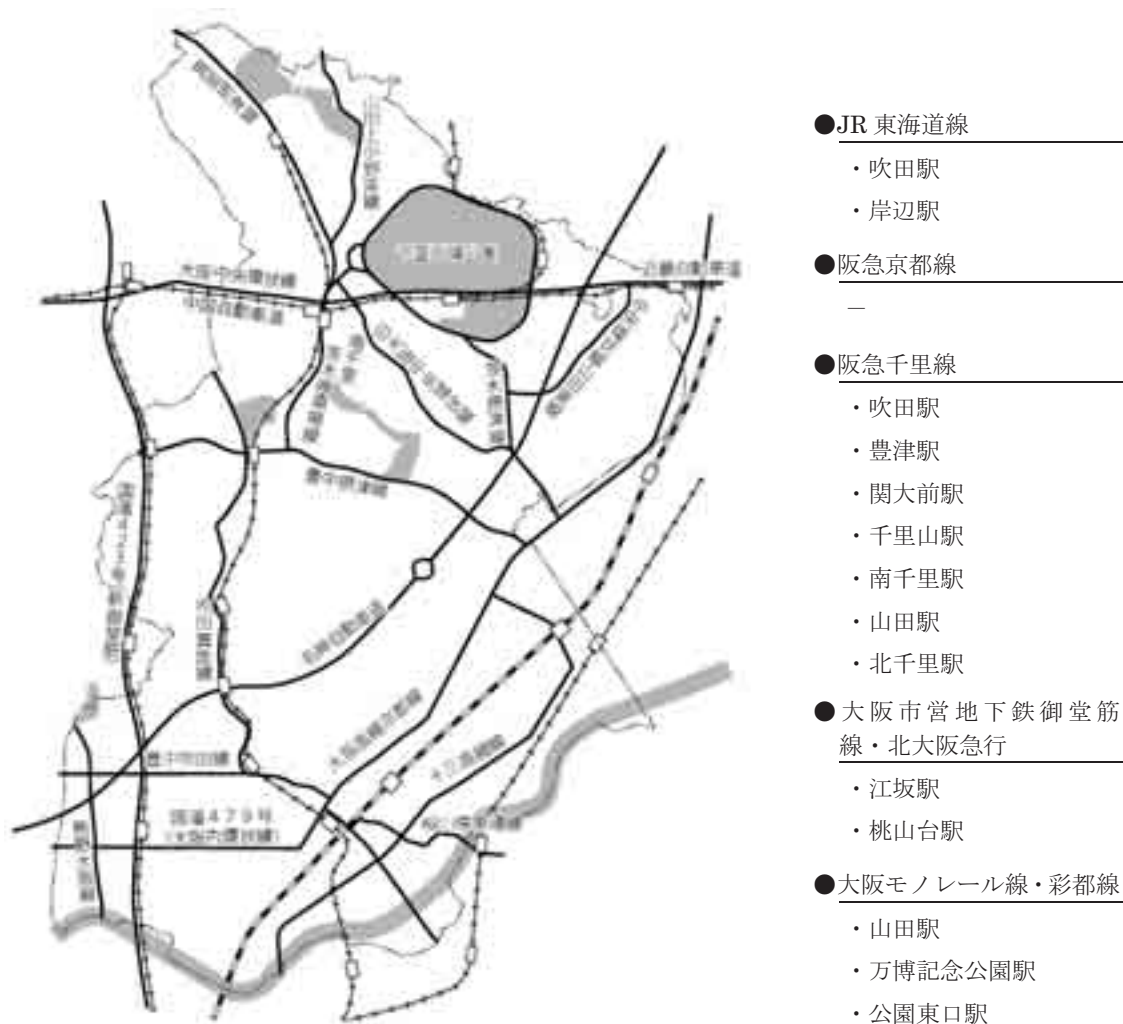


図 20 市内の鉄道網・道路網

（出典 「吹田市第2次環境基本計画」）

自動車登録台数（乗用車）は計10万台ほどとなっており、近年はほぼ横這いで推移しています。しかし、内訳を見ると、小型乗用車が減少している一方で、普通乗用車（いわゆる3ナンバー車）と軽乗用車が大きく増加しており、乗用車の大型化と2台目需要が増加しているものと推察されます。

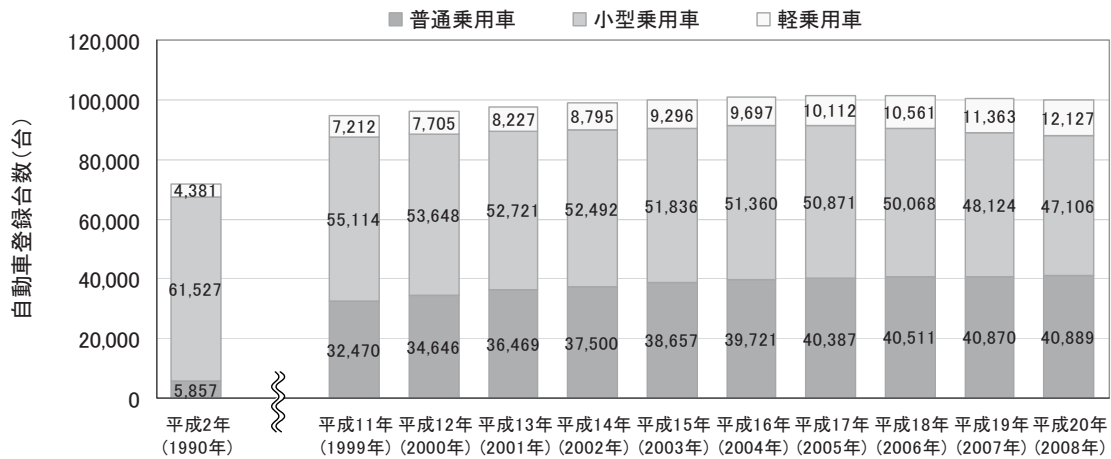


図 21 乗用車の登録台数の推移

(出典 「吹田市統計書」をもとに作成)

### (5) 一般廃棄物（ごみ）

ごみ処理量は、発生抑制や集団回収等の効果により、平成 12 年度（2000 年度）以降、一貫した減少傾向にあります。

この間、ごみ処理全体に占める焼却の割合はほぼ一定であり、平成 20 年度（2008 年度）では約 82%となっています。

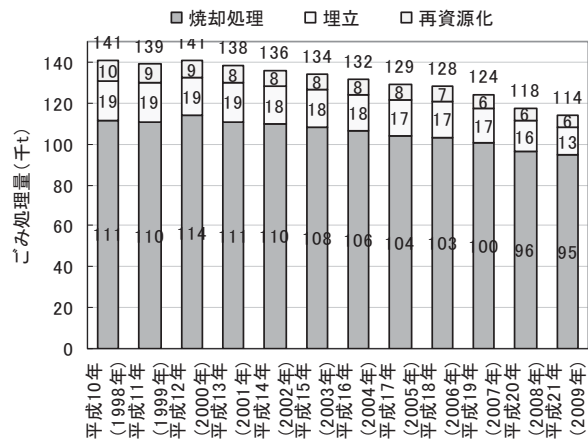


図 22 ごみ処理量の推移

(出典 「吹田市統計書」をもとに作成)

### (6) 市民・事業者の行動

環境家計簿の取組に参加する世帯数は近年ほぼ順調に伸びていますが、光熱データ等を提出まで行う世帯数はそれほど伸びていません。

また事業者では、環境マネジメントシステムの認証取得の延べ件数は増加しており、平成 12 年度（2000 年度）末では計 6 件であったのに対して、平成 22 年（2010 年）12 月末現在では計 130 件となっています。

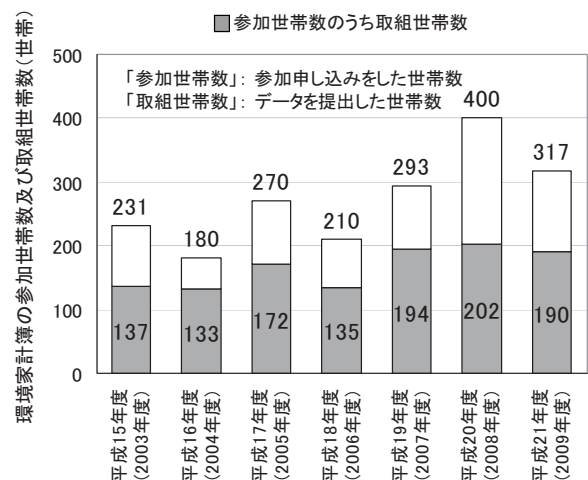


図 23 環境家計簿の取組状況

(出典 吹田市環境部データをもとに作成)

表 7 環境マネジメントシステムの認証取得件数（延べ件数）

環境マネジメントシステム	平成 12 年度 (2000 年度) 末	平成 17 年度 (2005 年度) 末	平成 22 年 (2010 年) 12 月末現在
ISO14001	6	21	89
エコアクション 21	0	8	35
KES	0	1	6
合計	6	30	130

(出典 吹田市環境部データをもとに作成)